

【江南市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央審議会より出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」の答申では、ICT機器の活用により全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるとしている。

本市においては、ICT機器の活用により、児童生徒がかかわり合い（協働的な学び）を大切に、全員が安心して授業に参加できること、より質の高い学びを実現し、情報社会に主体的に対応できる情報活用能力を育成することを目指している。

2. GIGA第1期の総括

令和6年4月に実施された全国学力学習状況調査の学校質問紙では、次のような実施率となった。

特に以下の項目については、多くの学校（80%以上）で実施された。

	全国	本市
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	92.5%	100%
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	93.4%	93.3%
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	92.4%	93.3%
調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	76.4%	86.7%

（週3回以上の活用の割合）

以下の項目の実施率は、50%以上80%未満であった。

	全国	本市
調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	49.4%	66.7%
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	59.2%	66.7%
調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	54.1%	53.3%

(週3回以上の活用の割合)

以下の項目の実施率は、50%未満であった。

	全国	本市
調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	49.4%	46.7%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援	30.8%	40.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援	48.1%	40.0%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4) 児童生徒の心身の状況の把握	30.1%	26.7%
障害のある児童生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害	16.1%	13.3%

種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施しましたか		
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援	14.6%	13.3%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2) 希望する不登校生徒に対する授業配信	26.8%	13.3%
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援	9.3%	0%

(週3回以上の活用の割合)

本市がICT機器を活用していく中での成果として、教職員が授業でICT機器を進んで活用していることや、研修会等で学んだことを活かして授業ができていることが挙げられる。一方、協働的な学びを実現するための児童生徒同士がやりとりする場面での活用では、50%を下回り、課題が残る結果となった。理由の一つとして、学校によって使用頻度に差があることが分かった。ICT機器の使用状況や使用方法等を各学校間で情報交換し、児童生徒同士が関わって学習していくためにICT機器をより効果的に活用している学校を参考に今後も推進し、課題解決に努めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

今回の端末の整備・更新により、1人1台端末とクラウド環境を引き続き維持していく。また、情報通信技術支援員（ICT支援員）については、令和6年度は15校に4人を配置し、基準の4校に1人を満たしており、今後もこの体制を維持していく。

教職員の授業でのICT機器の活用は今後も全校で継続する。児童生徒の情報活用能力をさらに育成するために、児童生徒が調べる場面や自分の考えをまとめ、発表・表現する場面での効果的なICT機器の活用方法を教職員が学べるように研修会を開いたり、自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、全校に取り入れたAIドリルを有効活用できるような使用方法を検討する。

児童生徒が関わり協働的な学びを実現するために児童生徒同士がやり取りをする場面では、個々の意見や思考の過程などを可視化し、互いに参照できるようホワイトボードアプリ等の活用を促進していく。

その他、活用割合の低かった、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援や、外国人児童生徒への支援については、文章の音声入力や、画像撮影、翻訳機能、音声教材の活用等により学習意欲が上がったことを各学校に紹介し、活用を促す。不登校児童生徒に対する学習活動等への支援では、本人の意向等を考慮しながら、学校内に限らず、学びの保証の支援を実施したり、児童生徒の心身の状況の把握、児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援したりすることについても今後、活用方法を検討する。

今後も、江南市情報教育研究部会を中心に、各学校の使用状況を共有し、よりよい活用に向けて取り組んでいきたい。